



3月9日(水)・・・自由討論「クラブ管理運営委員会」  
クラブ協議会③  
3月16日(水)・・・会員卓話「中武 幹雄君」  
3月23日(水)・・・会員卓話「宮内 文功君」

## 佐土原ロータリー月間テーマ

【識字率向上月間】

☆4月13日(水)は出席率100%の日です。

## 第1152回の記録 平成23年2月23日

### 会長の時間

＜藤堂 孝一会長＞

皆さん今日は第1152回の例会です。今日は1905年ロータリーの最初の例会が開催された記念すべき日です。ロータリーの創立記念日です。

ニュージーランドの地震には驚かされました。事務所の休憩所で従業員と一緒に食事中にTVニュースで知りました。マグニチュード6.3クラスとの報道でしたが、あんな壊れ方をするのを見て何とお粗末な建物だろうと皆で話していたのですが、詳しく報道で知らされて直下型の震源の深さが浅くものすごい震度だったようです。

震度7クラスだったのではといわれています、又活断層の真上に建物が建っていたのかもしれませんが。地盤が壊れてはいかに丈夫な建物でもひとたまりもないと思われれます。日本からの留学生が多く行方不明になっています。72時間が生死の境と言われ早く捜索して救出してもらいたいものです。日本からも救助隊が到着して活動していますが日本の救助隊のレベルは世界最高との事で期待が持てますが、壊れ方が余りにも激しくて時間もかかりそうです。

18日の会長会に出席してきました宮崎中部分区の9クラブの会長と岩切ガバナー補佐、2730地区のガバナー指名委員会の田村PG、秦PGも参加されての会議でした。

内容は2012-2013年度のガバナーを中部分区で出すよう要請されているので皆さんの意見を聞きたいとの事でした。各クラブの話では今すぐには候補がないということでした。佐土原クラブの意見も述べておりますが、クラブの会長経験者に意見を聞き今後の検討事項という事で話しておりますので、今後会議を開催しますので連絡調整して日程を決めさせていただきます。

### 幹事報告

＜幹事代理 岩切 正司君＞



### 委員会報告

奉仕プロジェクト委員会 宮内 文功君



※ NPO 法人ふるさと文化芸能振興会・佐土原伝実行委員会に社会奉仕賞贈呈に向けての検討会を行いました。

※例会変更届け～無し

※ガバナー事務所～

第3回日台ロータリー親善会議開催案内参加会員フォーム再送の案内

※ガバナー事務所～

「日本におけるロータリー平和センターを支援する委員会」より

2010年4月～12月末までの募金状況報告が参りましたのでお知らせいたします。

### 出席報告

出席委員長 宮原 建樹君



会員26名 (免除2名)  
欠席者数 5名  
出席者数 21名  
出席率 95%  
メイクアップ 2名  
修正出席率 89%

会員卓話

柳田 光寛君



石門心学とは

石門心学とは江戸時代に石田梅岩(いしだばいがん, 1685~1744)が創始した庶民のための生活哲学です。石門とは、石田梅岩の門流という意味です。陽明学を心学と呼ぶこともあり、それと区別するため、石門の文字を付けました。

梅岩は、儒教・仏教・神道に基づいた道徳を、独自の形で、そして町人にもわかりやすく日常に実践できる形で説きました。そのため、「町人の哲学」とも呼ばれています。<商家は、家業を続けることで、天下の泰平を助け、万人の福祉に奉仕するものであり、それが商売の本質である。>これは、江戸商業近代化の基礎となった石門心学の考えです。

石田梅岩(1685年—1744年)は丹波の国(京都府亀岡市)で百姓の次男として生まれ、11歳で呉服屋に丁稚奉公に出て以降、商家に奉公しながら独学で儒教を学び、45歳のときに借家の自宅で町人を集めて無料の講話を始めた。

その教えの特質は、農民は作物を作って禄を得る、武士は主君に仕えて禄を得る、これと同じように商人は売買を行なって禄を得る、これは天下の道理だ、と説いた点にあり、土農工商の身分秩序の中で蔑まれていた商人の利潤追求を、正当な行為であると正面から肯定し、商人の精神的支柱となる考え方広め点にあると考えられる。自由に自己の利益を追求することが社会の幸福を実現することになると「見えざる手」を説いたアダム・スミスよりも古い時代にこのような教えが日本で説かれていた事実は、もっと注目されてよいはずだ。

石門心学は、日本の資本主義精神にも影響を与えており、その基礎は、この石田梅岩の思想であると云われています。欧米の資本主義の精神がプロテスタント教の精神が基礎にあるのと同じような事と思います。このため、欧米資本主義と日本の資本主義は、その基礎のレベルで違うことになる。

日本は契約より話し合いをベースにした社会であり、企業と言う共同体の一員としての雇用のために、終身雇用が定着している。そして、その精神的な部分は、石門心学によっている。その石田梅岩の思想の基礎は江戸初期の鈴木正三の思想です。

正三の思想は、「仏法則世法」で生活の業を立派な行為と考え、心がけ次第で労働をそのまま仏行となしうるとした。農業則仏行なりとなる。農業を修行と考えて行動することを求める。商人の利益も否定しないで、正直の道にいれば修行である。人に奉仕した結果が利潤を生むことはいいことになる。

この鈴木正三の思想を発展させたのが、石田梅岩の石門心学である。正三が宗教家として説いた修行方法を、梅岩は非宗教家である思想家として思想に置き換えた。役に立つ物は真理であるので、古来の思想のいい部分を使って証明しようとする。その根本は「本心」の存在に依っている。「本心の学」から心学となった。梅岩の基本も正直であり、「本心」に対して正直であれの意味になる。これに比べると、聖書には「本心」は登場しない。梅岩は「本心」とは何かを問い詰める。「本心」は自然である。自分の中に天然自然があり、それが「本心」を構成していると見る。このため、日本では「不自然」という言い方が、批判になる。

「心」すなわち内心の秩序と、宇宙すなわち天然自然の秩序は同一であり、この2つをつないでいるのが「形」であり、「形」に従っているのが自然であるように、人と社会をつなぐのが「形」であって、この「形」に従っているのが自然であり、それに従うのが「道」であり、その基本をきわめたものが聖人ということになるのである。世俗の業務に宗教的な意義を感じ、すべてを度外視して専念し、人間の倫理=道と考えて、これを実行し良心を満足させ、さらに儉約しているなら、資本が蓄積して、その結果として利潤が世界最高になってしまうのも不思議ではない。

そして、梅岩は儉約を説く。その基本は「自制」であり、それが社会秩序の基礎と考えている。以上、現在の日本の資本主義は、その精神が梅岩の石門心学の思想でできている。それを変えようとしても無理で、この石門心学にある精神で日本流の資本主義を営むしかない。それと日本の心学を徹底した方が、日本人には分かりやすい。

欧米の資本主義思想を持ち込んでも、言葉だけが流行して、その後は廃れることになる。CSR(Corporate Social Responsibility=企業の社会的責任)を梅岩は説いている。「二重の利を取り、甘き毒を喰ひ、自死するやうなこと多かるべし」「実の商人は、先も立、我も立つことを思うなり」と、実にシンプルな言葉でCSRの本質的な精神を表現した石田梅岩の思想は、近江商人の「三方よし」の思想と並んで、「日本のCSRの原点」として脚光を浴びている。

3分間スピーチ



例会の様子

♪ハッピーBOX披露♪

※垂水 敏雄君~人生85歳の坂を迎えるといろいろあることを実感しました。「米山」「財団」

四つのテスト

「言行はこれに照らしてから」

1. 真実かどうか
2. みんなに公平か
3. 好意と友情を深めるか
4. みんなのためになるかどうか

出席状況 第1147回

平成23年1月12日(水)

会員数	26名
(免除会員)	2名
出席者数	21名
欠席者数	5名
出席率	87.0%
メイクアップ	0名
修正出席率	89.0%

MEMO

例会中は携帯電話の電源を切るか  
マナーモードにして下さい・・・

---

---

---

---

---

---

---

---